

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス 特別講演会とコンサート “小澤征爾さんを偲んで”

このたび当法人では、元・FM東京音楽プロデューサー、現・音楽評論家・東条碩夫氏を講師にお迎えし「追悼 マエストロ・小澤征爾」と題して特別講演会を行います。

東条氏は1964年にエフエム東京入社後、音楽プロデューサーに就任。カラヤン、ベーム、シュワルツコップ、ミケランジェリ、ポリニ等のコンサートを収録。1975年「TDKオリジナルコンサート」の委嘱作品、武満 徹作曲「カトレーン」の制作に携わり、「昭和50年度文化庁芸術祭大賞」を受賞。また、分裂して誕生した新日本フィルの番組を企画。小澤征爾・新日本フィルを陰で支えました。現在は音楽評論家として年間230回以上のコンサートに通い、音楽評論を通じて音楽界に大きな貢献をしています。アルトウスから発売された朝比奈隆のライブ・シリーズでは自ら監修を行い、朝比奈隆が新日フィルと行ったベートーヴェン連続演奏会に合わせて企画された対談の記録は著書にもなっています。

戦後の日本音楽界を牽引して来た小澤征爾氏は今年の2月6日に亡くなり、世界が悲しみに包まれました。東条氏が今回のテーマに選んだのが、関係のあったマエストロ・小澤征爾の追悼プログラムです。身近で接した小澤征爾氏の貴重なエピソードが聞ける、またとない機会となるでしょう。

日 時：2024年4月13日(土) 午後2時00分～午後4時30分(休憩10分)
場 所：龍ヶ崎市 市民活動センター 2階大会議室
講 師：東条碩夫氏(元・FM東京音楽プロデューサー、現・音楽評論家)
テーマ：「小澤征爾さんを偲んで」

《東条碩夫氏・略歴》

1939年東京生まれ。早稲田大学卒。1964年FM東海(後のFM東京)に入社。「TDKオリジナル・コンサート」、「新日フィル・コンサート」など同社の音楽プロデューサーとして、クラシック音楽番組の制作全般に携わる。1975年文化庁芸術祭大賞受賞番組制作(武満徹作曲「カトレーン」委嘱制作)。その後、FM静岡編成制作部長、FM東京第一制作課長、FMサウンズ取締役制作部長、「ミュージックバード」(CS-PCM衛星デジタルラジオ)編成部長等歴任。現在は、フリーの評論家として新聞・雑誌等に寄稿し、TV、FM番組に出演。年間に聴くコンサート回数は230回以上。ブログ「東条碩夫のコンサート日記」は訪問者400万超。モーストリー・クラシック誌に「東条碩夫の音楽巡礼記」連載。主な著書に「朝比奈隆 ベートーヴェンの交響曲を語る」や「伝説のクラシック・ライブ」等がある。



プログラム

- バンスタインのアシスタントに決まった25歳の小澤征爾の指揮
黛 敏郎：「饗宴(バッカナール)」より(約5分)
小澤征爾指揮ニューヨーク・フィルハーモニック(1961年春 ニューヨーク、カーネギーホール VOA)
- 小澤征爾のナレーションと指揮による「ピーターと狼」
プロコフィエフ：「ピーターと狼」(28:20)
小澤征爾(指揮と語り)日本フィルハーモニー交響楽団(1971年 郵便貯金ホール FM東京)
- (休憩10分) ————
- 旧日本フィル最後の定期演奏会
マーラー：交響曲第2番ハ短調「復活」から第5楽章中間部(6:06)&終結部(3:47)
小澤征爾指揮日本フィルハーモニー交響楽団(1972年6月16日 東京文化会館大ホール FM東京)
- 新日本フィル欧米演奏旅行から
安生慶・一柳慧・山本直純：「天・地・人」より後半(7:49)
鶴田綿史(琵琶)、横山勝也(尺八)、天野宜(甲州太鼓)、観世栄夫(謡)
小澤征爾指揮新日本フィルハーモニー交響楽団
(1974年11月1日 ロンドン、ロイヤル・フェスティバルホール BBC生中継)
- サルツブルク音楽祭の小澤征爾
ブラームス：交響曲第1番ハ短調Op.68 から第4楽章(17:21)
小澤征爾指揮シュターツカペレ・ドレスデン(1976年8月8日 サルツブルク祝祭大劇場 ORF-NHK)

★ホームページアドレス <https://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/>